

## 平成 24 年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(共和地区)

開催日時	平成 24 年 10 月 25 日 (木) 午後 7 時から午後 9 時	天気 晴れ
場所	共和トレーニングセンター	
町民参加者	男 17 人 女 5 人 (40 代以下 1 人、50 代 2 人、60 代以上 19 人)	
町出席者	町長、副町長、教育長、企画財政課長、総務防災課長、環境農林課長、都市整備課長、上下水道課長、事務局 2 人	

### 出席者から出された主な意見や提案

《テーマ：防災、生活道、都市公園、ふるさと館》

○神奈川県が大野山牧場を原則 3 年以内に廃止することを考えているようだが町には情報がどの程度入っているのか。

○県立つぶらの都市公園の先行きはどうか。県は秦野の戸川公園も含めて管理委託の形態をとると聞いているがどうなのか。

○地域振興会や NPO では、災害に強い山造りと再生、鳥獣害対策や都市住民との交流事業などさまざまな活動を進める中で、どうしても財産区の財源に頼らざるを得ない。他地区の財産区との兼ね合いや町議会の議決も必要だろうが、地域のために使うという点から、ぜひ財産区予算の執行については理解をいただきたい。

○共和小学校は昨年廃校となったが、NPO の事務所としても使用している中で、多額の施設維持管理費が必要となっている。しかし、NPO の財源は大変乏しいので、人件費も含めて、財産区の財源を使用したい。

○財産区の金の使途については地域振興会などのように、会員が住民に限定されるのであれば助成は考えられるが、NPO のような不特定多数の方が会員になる団体には助成できない。

○昨年から 3 回ほどに分けて、全住民に呼びかけて財産区の山の現地確認を行っている。財産区では 9 月に作業員を募集し、既に男性 16 名、女性 7 名が登録をしてくれており、この人たちを中心に今後、山の活用方法を検討していくことにしている。活用にあたっては、杉やヒノキは、80 年から 100 年とサイクルが長いので、もっと短いスパンで実益になるクヌギなどを植林していこうと思っている。

○住民福祉や防災も含めて、道路は非常に大切だと思っているが、道路は舗装がされたものの、30、40 年前と大して変わっていないということ。他の地域の方からは、道が狭くて怖いから共和には行けないと言われている。町の財源と財産区の財源を使ってでも大幅な道路拡張工

事を実施していただきたい。

○同じ町民として同じ納税をしているのに同じサービスが受けられていないと感じている。昨年までは台風の後には倒木や土砂などの撤去を町が行っていたのに、今年の台風4号の後には行われなかった。

《テーマ：その他》

○丹沢湖周辺の標識について、青いペンキがはがれていたり、木が覆い被さったりして見えなくなっているところがあった。県道は土木事務所の所管ということは承知しているが、町職員も注視をしていただきたい。

○国道246号下り線の山北と松田の町境に交通安全の塔が建っているが、古くなって色もあせてしまっている。尺里の県道76号とバイパスの分岐箇所の塔も同様となっている。ペンキを塗り替えるだけでも、交通安全に力を入れているというPRになるのではないかな。

○山北駅前の公衆電話が撤去されて、外国への通話ができるが国内は通話できなくなってしまったので、善処していただきたい。

○昨今、子どものいじめ問題が取りざたされているが、結果として自殺ということを選んだ子どもは、いじめられているということを周囲に発信できず、行き詰ってその道を選ぶのだろう。しかし、本人が発信できなくても、周りにいる同級生や友だちが何かを察知しているはずで、そこから情報を出してもらうことを考えていかなければならないのではないかな。そのシステムが出来ていないと思っている。そこで、私たち大人が何らかの方法でいち早くキャッチして解決してやる必要があるのではないかな。

○鳥獣被害が大きくなっているなので、動物の住める山を作りたい。今年は獣害が町内全域で特にひどく、困り果てている。みんなで一緒に考える議論の場をぜひ設けてもらいたい。